1 月 17 日　ゲスト卓話

国際ロータリー第 2770 地区　卓話者バンク

坪田　祐貴

「 歴史に学ぶ者は賢者　　経験に学ぶ者は愚者 」と言いますが、大いに過去の歴史に学びたいものです。そして将来に大いに役立てたいと思います。本日は、幕末から明治の戦後史を現わした本を何冊か、ご紹介したいと思います。

1 冊目は、幕末の外交官を描いた、「岳信也著　幕末外交官」という本です。岩瀬忠震という幕末に幕府の外交官として、当時の米国に対して、日本の自立の為に米国の領事 タウンゼント ハリスに対して、ハリスの草案を手直しするなどして主意まで改正させ、タウンゼント ハリスも大いに交渉相手として替えせしめた人物です。当時の印度シナ同様、西洋の列強に屈することなく、日本の安全を守り通したのです。

私達はややもすると、徳川、江戸時代幕府は悪、明治は善と思いがちですが、歴史というものは断続するものではなく、絶えず連続しているものであり、幕末の色々な人の活躍があり、今日があるのです。

それに続く明治維新の時代、興味のある方は是非お読みください。「落合莞爾著　明治維新の極秘計画」という本です。ネットでは周知の明治天皇の南朝史観を現わした本です。時間の都合上、要点だけお話しますが、明治維新そのものが南朝革命という史観です。もしそうであれば、天動説地動説ほどのインパクトある話です。たえず色々な事象をうたがうことから真実が見えて来るのです。

もう一冊だけご紹介いたします。「孫崎享著　戦後史の正体」です。戦後から現在に至る日本の外交が、自立路線外交か、対米追随外交かで、政府交替があり現在につながっていることを現わしている本です。私達の将来の行動の一助になると思います。

最近の動向に沿ってお話させて頂きます。フランスの俳優 ジェラール・ドパルデューさんがロシア国籍を取得して移住しました。フランスの新所得税率案では、7.5％の課税に対して、ロシアの所得税は一律13％が原因です。東南アジアに目を向ければ、シンガポールでは所得税の最高税率は 20％。しかもキャピタルゲインは無税、相続税、贈与

税も 0 です。法人税も一律 17％でアジア最低レベルです。その結果、シンガポールに移住している人が増えているということです。

2 つ目の事案としては、2013 年 3 月 31 日で終了する金融円滑化法案についてです。金融機関が債務者に対して、債務者区分、信用格付けを実施し、円滑化法案の終了に伴い、益々法人が厳しい状況になるという事象です。出口戦略としては、ＤＥＳ（負債と資本の交換）を行い、自己資本比率を高めると同時に安全性を高めるという戦略があります。ここで注目すべき事象として、平成 24 年 3 月 28 日の中小企業の粉飾にともない、2 年 8 ヵ月の実刑判決が出たという事実です。

「400 万企業が哭いている　石塚健司著」を是非ご一読下さい。

税制の動向としては、消費税の増税、所得税、相続税の引き上げが予定されています。それとともに、給与を増やすことによる税額控除、交際費の全額損金控除などの減税も予定されています。今後の税制の動きを注視して、大いに活用出来ることに対しては役立てていってもらいたいと思います。

最後になりましたが、激動の時代、絶えず物事を適格に判断する目をもって、将来に役立てていただけたらと思います。